せきの戸

三お流しくし 并二
調子名とをとる

へ12
利
20
14

へ12
20
10

特12 へ 門 20 号 巻 10

源氏八丈九月晦の石山詣る条

伊予のすけといひしハ、こ院（桐壺ノ帝）かくれさせ給ひて、又の
としひたちになりてくだりしかバ、かのはゝきゞも（空蟬之）
いざなはれにけり。すまの御（源氏）たびゐもはるかにきゝて
て、人しれずおもひやりきこえぬにしもあらざりし
かど、つたへきこゆべきよすがだになくて、つくばねの
山をふきこす風もうきたる心ちして、いさゝかの
つたへだになくて年月かさなりにけり。かぎ（源）
れることもなかりし御たびゐなれど、京にかへりすみ
給ひて、又のとしの秋ぞ、ひたち（いよのかみ）ハのぼりける。関（せき）
いる日しも、この殿（源）石山に御願（ぐわん）はたしにまうで
給ひけり。京よりかのきのかみなどいひし子ども。

むかしはかゝる人〴〵この霞かくまうで詣べしや。
つげればこちのほどさだしかば、ちんもれぞと
て。まづあふさきりつそござけつれを。女車おほく
来きうゆりぎかりは日かけぬうち。つぞのさ海か
ほどは。霞はあまた山こえかぬとて。れだんの人〴〵こ
ちもさりあへずさゝえぬれば。もとさ山はこれおり
おそごゝしこの杖のさゝるは。車どもうごきおそろし。
まづれはおりしこまりてもぐし。甘か。らる海
あづかるへハとらうし。さるはさそちゞしれれど。
れかいひろゝこゝ。車十だらりぞ。袖ぐちものゝ色
おひあどもより出て。こしらう。お中びぜよしあそ。

秋家のれかぶりおまでやうのおりのまれこゞらる海
栄し出うる霞もりく世はさんへ出給ひ於げゝしし
さるがずもあるされ。紅葉前どもられめとぐめくり九月
川ごもりあれば。紅葉の色こゝさまぎ。霜ぐれの事
むらくおりしらこしりくりはちきさ山よりまござと
くらぐれ出さう猿すぐる花の色ゝのあをのつさぐ
ちさゝかひ地。ゝりせ渓のさ海もさうかゝまおりしう
こゝ車ハすゞれおろしのそ。それむりしのこ思
いまは名湯のすけあるとのしらそてさふ乃れ
関むかへハえさひもて給ひすあるどの給ひろの
まちいとあられはおぼし出らうとおほかれど。

物ぞりまてをひあし來も人しれずむりしのく
よすれれがぢり返してまれおちれおり
ゆくとくときさとあぐころもぶとやむ
えぬ志水と人ハころん元志り給りしとれ
ものいとをひあし

（源）石山よりいで給ふ御むかへに右衛門のすけ
まゐれり。ひとひまかりすぎしかしこまりなど
申す。（源）むかしはわらはにていとむつましうらうたき
ものにし給ひしかば、かうぶりなどえしまで、
このみとくにかくれたりしを、おぼえぬ世のさ
わぎありしころ、ものゝきこえにはゞかりて、
ひたちにくだりしをぞ、すこし心おきて
とし比はおぼしけれど、いろにもいだし給はず。
むかしのやうにこそあらねど、猶したしき家人の
うちにはかずへ給ひけり。きのかみといひしも、今は
かうちのかみにぞなりにける。そのおとうとの

右近のぞうとけて御ともにくだりしをぞ、とり
わきてなしいで給ひければ、それにぞたれもおもひ
しりて、などてすこしも世にしたがふ心をつかひ
けんなど思ひ出ける。（源）右衛門のすけめしよせて、御せうそこ
あり。今はおぼしわすれぬべきことを、心ながくもおは
するかなとおもひゐたり。（文ノ詞）一日はちぎりしられしを、
さはおぼししりけんや

（源）わくらばにゆきあふみちをたのみしもなほかひ
なしやしほならぬうみ。関守のさもうらやましく、
めざましかりしかな、とあり。（源詞）年比のとだえも
うひうひしくなりにけれど、心にはいつとなく、たゞ今の

心ちするとひはあんずるぐしういとぐゞまも
まれもやとそのへれば、(古懸ん)くどけなくてまでいさ
ておきさ(詞)そろしかへ若きとさうしおぼしのくこ
あんとかのかうはおちしやうちあれはころのか
ゆうしさなんいとゞありござきするひぶとぞぶらう
あさこくはんぐえくそすくあはそこしく
さふ女まそはまけ男しのへくんはづとゆうされぬ
べしなどいふ今はましていとゞしうよろけの
ことうねくしさ心ちすれどめづしさやえ
たれぞれざりりん
わふされ閑やいゝききされば歎の

なげはつくらん身のやうはなんとせうぞう
わされもつらきも見すれぬかしとおぼしきれ
なん人なればおりくはなきのさまひうごくしゝう
かゝる時とまごのひさちのりんおいの川もきとり
やなやましうのらして此ころ時我ゝをれども
子どもは(詞)ふこの君のれこしをのこいひなきそ
よろけのしとふこのれころはのこまうきていけが
ありつゝせはくしてけりうまられとのこ明られ
いひそり女ござくろうさすくきそごの人り
さへなくれてはいかゞりさ後はちぶれまざらくべき
はかあんとからひなげきなふなをござり命乃

かぎりある物なれば。おしことゞむべきかたなし。
いづかたの人の心さへ。のがしなくむし。おとも
ぐれ。わが子どものこゝろもしらぬをとうらむるなり
なるしらしはいひおもへど。こゝろはえさだめぬ
物よそうちぬ。おもしろそさのさまひしもれを
なぐなさけけるれど。うちそへこそあれつらきこと
おほかたどもわかるもりのもせのことをもちなれど。
男ひとりのうちとまでなげきあはしくすぐ
このうちのことぞむかしよりすき心ありて。
すゑなるさけがりけり。おそれはの緒をたえしを。
数なるずとも覚しうとまでの緒をたせよなどつい

そうしありていたしわきましき心のこしあればさ
すくをある男まそうくいさとまりてきてしくは。
めづらしきことゞもをきこえあかれど。人あれで
おもひありて人はさるんとももちしもでおほる
あるはありおあるひとはいふひなしともひあげく。
ここもいとけうをのれをいとひそまつほどなは。
のありのれをもひは物ほく物しぬかん。いかで
もぐしかべきなどぞおいなれさしらやなど
ぞ侍める